学校評価アンケートの結果

- 1 目的 学校の取組を児童、保護者、職員で評価し、教育活動の改善を図る。
- 2 日程 令和4年12月 9日(金) 保護者アンケート配付(個別懇談終了日後)
12月5~9日 児童はこの間にタブレットで入力(Forms)
12月14日(水) 保護者アンケート回収終了
12月20日(火) 保護者アンケート結果入力完了(学習支援員)
冬休み アンケート結果集計分析(教頭)
令和5年 1月~2月 アンケート結果集計分析検討(総務)
3月 8日(水) 学校運営協議会実施
3月中旬以降 検討会の開催(学年会、各指導部会等)
3月下旬 アンケート結果公表(HP)
- 3 対象 全校児童(タブレット)、全保護者(紙媒体)、全教職員(PC)
- 4 学校評価アンケートの分析と考察
 - (1)「学校生活」の項目では、児童の92%、保護者の96%が「学校は楽しい」と答えている。教員も学校生活が楽しく送れるように指導しており、その成果が表れている。ただ、8%(学級に2、3人)の児童が「楽しくない」と回答しているので、「楽しい」と感じられるように、授業、学級経営、行事等を見直していきたい。
 - (2)「学習理解」の項目では、児童86%、保護者91%が、学習内容は分かりやすいと回答している。児童の「分かった」「できた」の笑顔を少しでも増やしていきたい。
 - (3)「肯定感」の項目では、児童の74%、保護者の80%が自分のよさを認めていると答えた。児童の約4人に1人は肯定感が低いということを真摯に受け止め、児童の「自己肯定感」を高める指導を意識して行っていく必要がある。
 - (4)「有用感」の項目では、97%の教員が「児童のよいところを認める支援に努めている」と答え、保護者も94%以上が「先生は子どものよいところを認めてくれている」と答えている。しかし、児童の約20%はそれを感じていない。児童が自信をもてるような「認め方」「褒め方」を実践していきたい。
 - (5)「感謝」の項目では、児童の91%、保護者の88%が「周りの人にありがとうを伝えている」と回答しており、感謝の気持ちが育ってきている。
 - (6)「規範意識」の項目では、児童の84%、保護者の79%が「時間や決まりを守って生活できている」と回答しており、学校のノーチャイム制によって、時間を意識して生活を送っている。
 - (7)「挨拶」の項目では、児童の83%、保護者の84%が「あいさつができています」と回答している。コロナ禍ではあるが、学校、家庭、地域で挨拶ができるように継続して指導していきたい。
 - (8)「交通安全」の項目では、児童95%、保護者93%が「交通ルールとマナーを守っている」と回答しており、登下校の安全への意識が高い。ただ、児童の実際の行動では、危ない場面も見かけるので、命の大切さを継続して指導していきたい。

- (9)「相談」の項目では、児童の76%、保護者の83%が「困ったときに相談できる先生がいる」と回答している。残りの24%の児童が困ったときに、頼りにされる教師集団になれるように研鑽していききたい。
- (10)「思いやり」の項目では、命の大切さを道徳や学活、生活科や理科の授業を通して学んでおり、児童の91%、保護者の86%が「先生は命や思いやりの大切さについて教えてくれている」と回答している。実物や体験を取り入れた授業を今後も行っていきたい。
- (11)「いじめ防止」の項目では、児童の90%、保護者の83%が「先生は一人一人を大切にし、いじめを少なくするようにがんばっている」と回答している。しかし、10%の児童は、いじめの不安を抱えていると捉え、粘り強く指導していききたい。

5 来年度の向けての改善策

- (1)「肯定感」については、児童の存在をしっかりと受け止め、「自己肯定感」が高まるように、「ありがとう」、「ごめんなさい」等の挨拶の輪を家庭と学校で広げていきたい。また、褒め方について研修を行い、タイムリーに褒めるスキルを高めていきたい。
- (2)「有用感」については、昨年度よりもポイントは上がっているが、今後も「タイムリーに褒める」「児童同士で褒め合う」など、児童の心に響く「認め方」「褒め方」を考え、「ひがりんタイム」で継続して実践していききたい。
- (3)「相談」については、児童の約4人に1人が悩み事があっても先生に相談できずにいると捉え、相談しやすい雰囲気づくりをしていくとともに、学期に1回行われる教育相談で児童の悩みを把握するように努めていきたい。また、教師の傾聴力、分析力が高まるように、カウンセリング研修会等を行い、児童が相談しやすい教師集団にしていききたい。